

# 上越南地区商工会景況調査報告書

## 1. 調査要領

### (1) 調査対象

- ア 対象地区 上越南地区（牧区、三和区、中郷区、板倉区、清里区）  
イ 対象企業 同地区内商工会員  
ウ 調査企業数 75 事業所（うち小規模事業者数 74 事業所）  
エ 回答企業数 75 事業所  
（回答率 100.0%）

### (2) 調査対象期間

令和3年 4月～ 令和3年 6月  
（調査時点： 令和3年7月1日）

### (3) 調査方法

会員へ調査票を配布し回答を回収した。

※本報告書中の「DI」とは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について増加（上昇、好転）企業の割合から減少（低下、悪化）企業の割合を差し引いた値を示すものである。

### (4) 調査対象と回答企業の構成

	調査対象		有効回答	
	企業数	構成比	企業数	構成比
1 建設業	25	33.3%	25	33.3%
2 製造業	9	12.0%	9	12.0%
3 卸売業	3	4.0%	3	4.0%
4 小売業	19	25.3%	19	25.3%
5 飲食・宿泊業	10	13.3%	10	13.3%
6 サービス業その他	9	12.0%	9	12.0%
合計	75	100.0%	75	100.0%

	小規模企業	中小企業	大企業	合計
規模別回答企業数	74	1	0	75
構成比	98.7%	1.3%	0.0%	100.0%

## 2. 地域内産業全体の景況概要

長期化するコロナ禍の影響により、引き続き厳しい状況が予想される今期ではあったが、総合的にDI値は前期比・前年同期比とも大幅に改善されている結果であり、今回の調査内容の全ての全体指標において景況感は持ち直してはいる。但し、今後の見通しは、売上・採算及び景況判断でDI値が減少となっており新型コロナウイルス感染症やウッドショックの影響をはじめとする様々な要因によって、先行き不透明感が一層高まるおそれもあります。

**【売上高】**

売上D I 値は、前年同期比（R2. 4月～6月）で+15.0ポイントであり、前期比（R3. 1月～3月）では+59.3ポイントで改善が見られます。しかし、今後の見通し（R3. 7～9月）は△21.2ポイントとなっています。全業種において、今後の見通しでは売上が減少傾向になるのではないかと回答が目立った。

**前年同期比**

増加	不変	減少
24	21	30

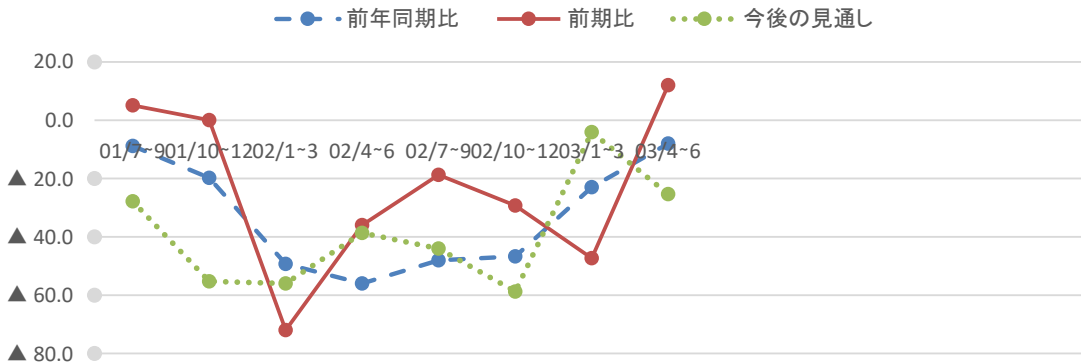
**前期比**

増加	不変	減少
30	24	21

**今後の見通し**

増加	不変	減少
10	36	29

**売上DIの推移**



	01/7-9	01/10-12	02/1-3	02/4-6	02/7-9	02/10-12	03/1-3	03/4-6				
前年同期比	▲ 8.9	▲ 19.7	▲ 49.3	▲ 56.0	▲ 48.0	▲ 46.7	▲ 23.0	▲ 8.0				
前期比	5.1	0.0	▲ 72.0	▲ 36.0	▲ 18.7	▲ 29.3	▲ 47.3	12.0				
今後の見通し	▲ 27.8	▲ 55.3	▲ 56.0	▲ 38.7	▲ 44.0	▲ 58.7	▲ 4.1	▲ 25.3				

**【採算】**

採算値については、前年同期比（R2. 4月～6月）で+9.8ポイントであり、前期比（R3. 1月～3月）では+33.8ポイントで改善が見られます。しかし、今後の見通し（R3. 7～9月）は△17.1ポイントと減少しています。売上D Iと同じく全業種で、今後の見通しは不変及び悪化との回答が多く見られた。

**前年同期比**

好転	不変	悪化
16	27	32

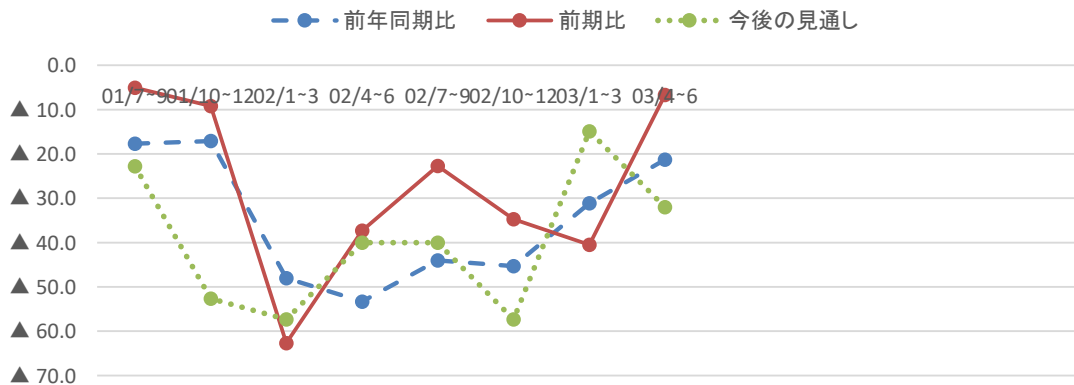
**前期比**

好転	不変	悪化
19	32	24

**今後の見通し**

好転	不変	悪化
6	39	30

**採算DIの推移**



	01/7-9	01/10-12	02/1-3	02/4-6	02/7-9	02/10-12	03/1-3	03/4-6				
前年同期比	▲ 17.7	▲ 17.1	▲ 48.0	▲ 53.3	▲ 44.0	▲ 45.3	▲ 31.1	▲ 21.3				
前期比	▲ 5.1	▲ 9.2	▲ 62.7	▲ 37.3	▲ 22.7	▲ 34.7	▲ 40.5	▲ 6.7				
今後の見通し	▲ 22.8	▲ 52.6	▲ 57.3	▲ 40.0	▲ 40.0	▲ 57.3	▲ 14.9	▲ 32.0				

**【仕入単価】**

仕入単価については、前年同期比（R2. 4月～6月）で+1.0ポイントであり、前期比（R3. 1月～3月）では+3.7ポイント、今後の見通し（R3. 7～9月）は+7.7ポイントと全てにおいて微増であった。特に、目立ったのが建設業の半数が今後の見通しで上昇との回答が多く見られた。

**前年同期比**

上昇	不変	低下
24	46	5

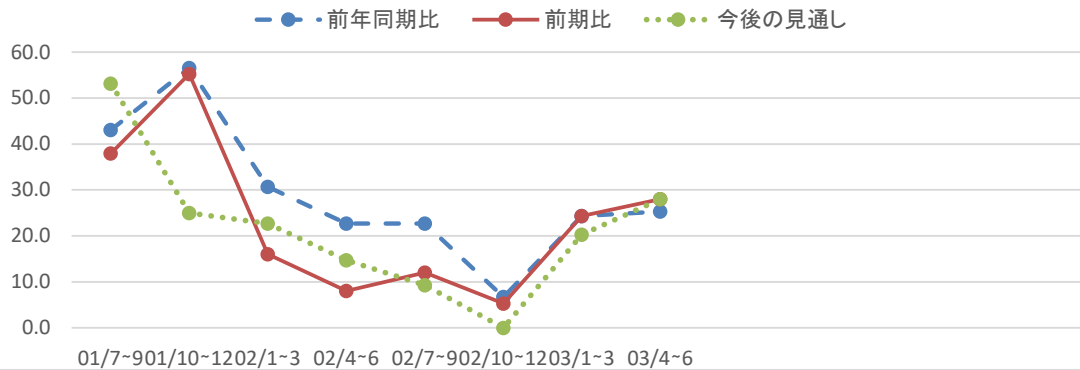
**前期比**

上昇	不変	低下
26	44	5

**今後の見通し**

上昇	不変	低下
25	46	4

**仕入単価DIの推移**



	01/7-9	01/10-12	02/1-3	02/4-6	02/7-9	02/10-12	03/1-3	03/4-6				
前年同期比	43.0	56.6	30.7	22.7	22.7	6.7	24.3	25.3				
前期比	38.0	55.3	16.0	8.0	12.0	5.3	24.3	28.0				
今後の見通し	53.2	25.0	22.7	14.7	9.3	0.0	20.3	28.0				

**【販売（客）単価】**

販売単価については、前年同期比（R2. 4月～6月）で+4.2ポイントであり、前期比（R3. 1月～3月）では+12.2ポイントと改善し、さらに今後の見通し（R3. 7～9月）は+5.4ポイントと全てで増加となった。今回の調査で前年同期比から今後の見通しまでの回答で不変もしくは低下が全体の85%であり、特に、飲食・宿泊業においては今後の見通しで低下するとの回答が調査企業の4割であった。

**前年同期比**

上昇	不変	低下
11	46	18

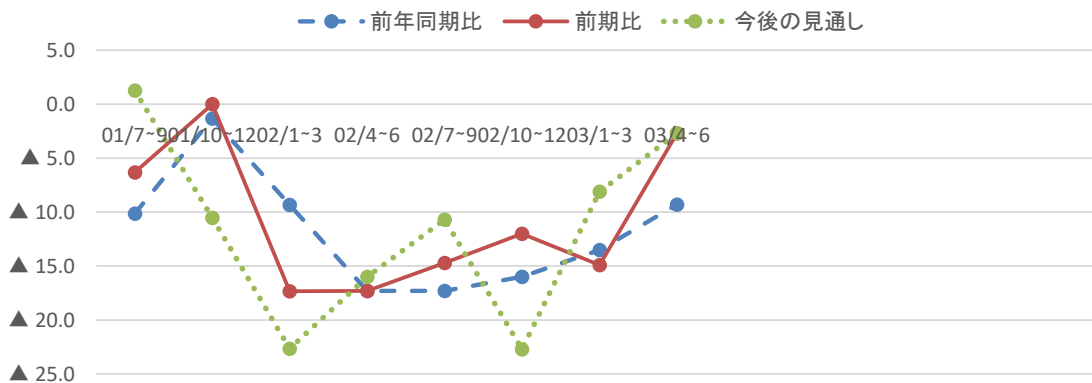
**前期比**

上昇	不変	低下
10	53	12

**今後の見通し**

上昇	不変	低下
10	53	12

**販売（客）単価DIの推移**



	01/7-9	01/10-12	02/1-3	02/4-6	02/7-9	02/10-12	03/1-3	03/4-6				
前年同期比	▲ 10.1	▲ 1.3	▲ 9.3	▲ 17.3	▲ 17.3	▲ 16.0	▲ 13.5	▲ 9.3				
前期比	▲ 6.3	0.0	▲ 17.3	▲ 17.3	▲ 14.7	▲ 12.0	▲ 14.9	▲ 2.7				
今後の見通し	1.3	▲ 10.5	▲ 22.7	▲ 16.0	▲ 10.7	▲ 22.7	▲ 8.1	▲ 2.7				

## 【資金繰り】

資金繰りについては、前年同期比（R2. 4月～6月）で+8.3ポイントであり、前期比（R3. 1月～3月）では+12.2ポイントとなり、さらに今後の見通し（R3. 7～9月）は+4.3ポイントと全てにおいて改善された。昨年の同時期の調査と比較すると大幅に上昇はしたが、今後の見通しでは殆どの調査企業が不変・悪化との回答であった。

### 前年同期比

好転	不変	悪化
6	54	15

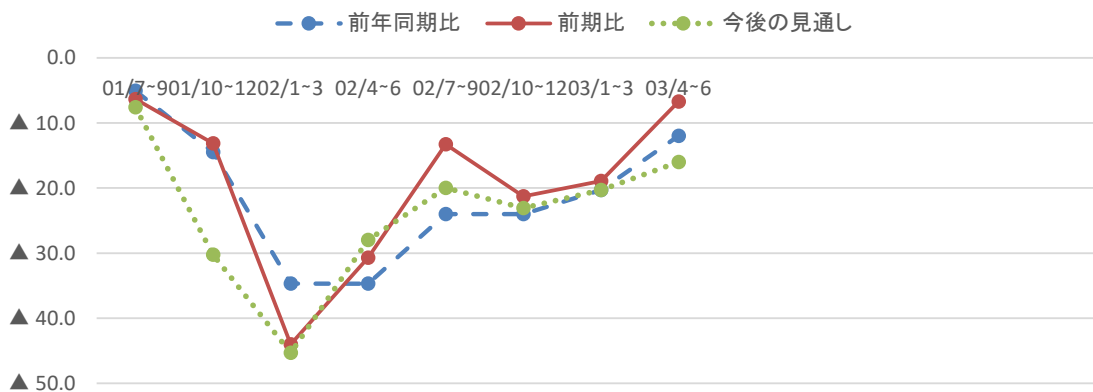
### 前期比

好転	不変	悪化
7	56	12

### 今後の見通し

好転	不変	悪化
2	59	14

## 資金繰りDIの推移



	01/7-9	01/10-12	02/1-3	02/4-6	02/7-9	02/10-12	03/1-3	03/4-6					
前年同期比	▲ 5.1	▲ 14.5	▲ 34.7	▲ 34.7	▲ 24.0	▲ 24.0	▲ 20.3	▲ 12.0					
前期比	▲ 6.3	▲ 13.2	▲ 44.0	▲ 30.7	▲ 13.3	▲ 21.3	▲ 18.9	▲ 6.7					
今後の見通し	▲ 7.6	▲ 30.3	▲ 45.3	▲ 28.0	▲ 20.0	▲ 23.1	▲ 20.3	▲ 16.0					

## 【雇用動向】

雇用動向については、前年同期比（R2. 4月～6月）で△1.2ポイントであり、前期比（R3. 1月～3月）では+6.8ポイントとなり、また今後の見通し（R3. 7～9月）は+0.1ポイントであった。今回調査で約9割の事業所が不変との回答が多く見られた。

### 前年同期比

増加	不変	減少
3	63	9

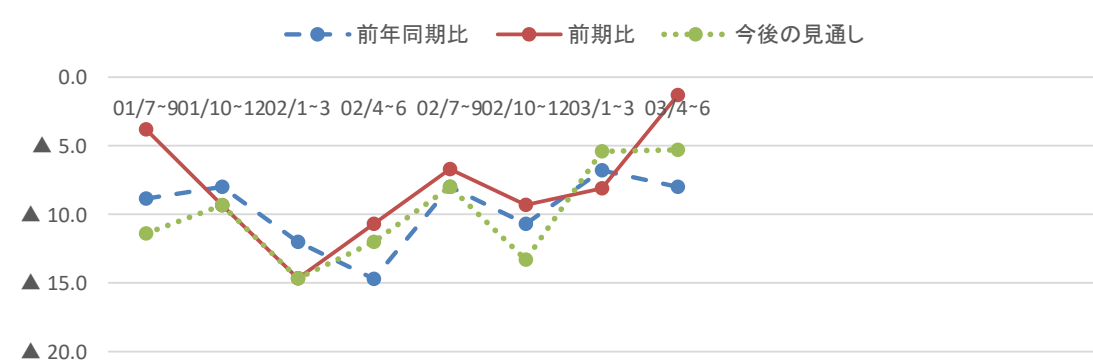
### 前期比

増加	不変	減少
4	66	5

### 今後の見通し

増加	不変	減少
2	67	6

## 雇用動向DIの推移



	01/7-9	01/10-12	02/1-3	02/4-6	02/7-9	02/10-12	03/1-3	03/4-6					
前年同期比	▲ 8.9	▲ 8.0	▲ 12.0	▲ 14.7	▲ 8.0	▲ 10.7	▲ 6.8	▲ 8.0					
前期比	▲ 3.8	▲ 9.3	▲ 14.7	▲ 10.7	▲ 6.7	▲ 9.3	▲ 8.1	▲ 1.3					
今後の見通し	▲ 11.4	▲ 9.3	▲ 14.7	▲ 12.0	▲ 8.0	▲ 13.3	▲ 5.4	▲ 5.3					

### 【景況判断】

景況判断については、前年同期比（R2. 4月～6月）で+11.1ポイントであり、前期比（R3. 1月～3月）では+16.5ポイントで改善が見られます。しかし、今後の見通し（R3. 7～9月）は△5.0ポイントとなっています。また、今回の調査結果から見ると全業種の3割が今後の見通しで悪化との回答であった。

#### 前年同期比

好転	不変	悪化
11	35	29

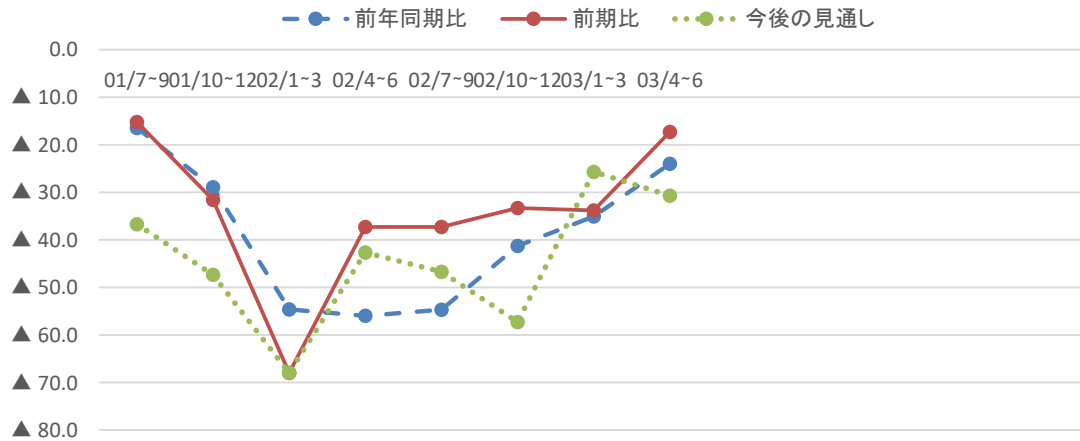
#### 前期比

好転	不変	悪化
8	46	21

#### 今後の見通し

好転	不変	悪化
5	42	28

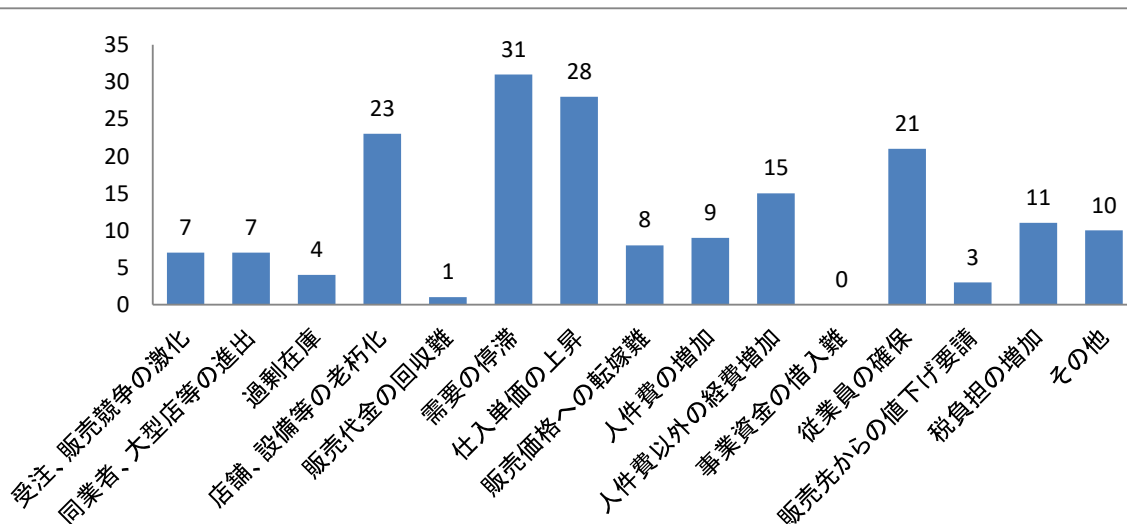
### 景況判断DIの推移



	01/7-9	01/10-12	02/1-3	02/4-6	02/7-9	02/10-12	03/1-3	03/4-6					
前年同期比	▲ 16.5	▲ 28.9	▲ 54.7	▲ 56.0	▲ 54.7	▲ 41.3	▲ 35.1	▲ 24.0					
前期比	▲ 15.2	▲ 31.6	▲ 68.0	▲ 37.3	▲ 37.3	▲ 33.3	▲ 33.8	▲ 17.3					
今後の見通し	▲ 36.7	▲ 47.4	▲ 68.0	▲ 42.7	▲ 46.7	▲ 57.3	▲ 25.7	▲ 30.7					

### 【経営上の問題点】

経営上の問題点については未だに厳しい状況が続き、前回調査と同様に「需要の停滞」が最も多く、次いで「仕入単価の上昇」「店舗、設備等の老朽化」が問題点として挙げられていた。「需要の停滞」については、小売業を中心に問題点として挙げている事業所が多く見受けられた。また、建設業は今後のウッドショックの影響で「仕入単価の上昇」が心配との回答があった他に、「従業員の確保」を問題点として挙げた事業所が多く特徴的であった。今後の事業・経営において強化したい点・期待したい点等として、新規顧客・販路開拓や現在発行しているプレミアム商品券に期待したいなどが挙げられている。



### 3. 産業別景況概要

#### (1) 建設業

建設業においては、売上及び採算性と半数の事業所が前年同期比・前期比で好転したとの回答があった。但し、今後の見通しになると2割弱の事業所しか好転するとの回答で、今後の経営状況は厳しいと見受けられる。経営上の問題点に関しては、ウッドショックと呼ばれる材木価格の高騰による「仕入単価の上昇」との回答が目立ち、次に「従業員の確保」となっていたが、これについては従業員の高齢化や後継者不足からと思われる。景況判断に関しては、来期の景況について調査企業の3割が悪化するのではないかと不安視する回答が目立つ。

#### (2) 製造業

製造業の売上及び採算性については、調査した事業所の4割が前期比より好転との回答であった。但し、今後の見通しにおいては半数以上が悪化するとの回答が目立った。また、仕入単価については前年同期比・前期比・今後の見通しで上昇するとの回答した事業所も多く見られた。経営上の問題点としては、「仕入単価の上昇」「需要の停滞」を挙げる事業所が多く挙げられた。

#### (3) 卸・小売業

卸売業においては、売上・採算性ともに前年同期比から今後にかけて大方減少傾向にある。また、小売業においては前期比で3割の事業所で売上が好転したとの回答であったが、今後の見通しでは5割弱の事業所が悪化との回答となった。しかし、現在発行されているプレミアム付商品券での売上増加を期待したいとの意見も多く挙げられた。経営上の問題点としては卸売業は「仕入単価の上昇」を挙げていた事業所が多く、小売業においては前回調査と同じく「需要の停滞」を挙げていたほか、「店舗、設備等の老朽化」を問題点として多く挙げていた。

#### (4) サービス業（飲食・宿泊を含む）その他

サービス業においては、売上及び採算性は大方の事業所が前年同期比から今後の見通しまで減少あるいは悪化傾向にあるとの回答が目立った。飲食業については消費者の外出自粛が未だに続き、来店頻度の落ち込みにより売上が減少している状況にあることがわかる。さらには、飲食業はGo To Eat食事券の販売を一時停止をしていることもあり、今後も厳しい状況が続くと思われる。また、飲食・宿泊業で最も多い経営上の問題点に上げられていたのは前回の調査同様に「需要の停滞」であり、サービス業においては「店舗、設備等の老朽化」が挙げられた。

今後の事業・経営において強化したい・期待したい点（設備投資・販路開拓等）や現在の経営環境下において貴社が感じておられる自由意見

#### 【 建設業 】

- ・職人不足対応、安定的な受注を得る為の営業力強化
- ・仕入単価の上昇に伴い、仕入業者の拡大を考えたい
- ・設備投資・販路開拓
- ・設備投資をしたいがこれ以上融資を受けられるか。ベトナム実習生が入国できないのが問題である
- ・プレミアム商品券を活用した販売促進策
- ・ウッドショックによる仕入単価の上昇。材木の確保が不安定状態。職人不足と人件費の増加により販売単価の見直しが必要
- ・行政・民間共に投資の抑制に入っているように伺える。

#### 【 製造業 】

- ・販売先の拡大を図りたいもののコロナの影響で関東圏へ行けない
- ・仕入価格の上昇、販売価格の上昇と価格の乱れが切に感じられる。止まる様子が不明
- ・消費者動向を注視している。売り方を提案して客単価をあげるように考えている。  
コロナ禍が落ち着いたときの生活様式の変化が不安
- ・販路開拓の強化と新商品開発

#### 【 卸・小売業 】

- ・店舗前道路工事で来客者が減少。プレミアム商品券の売上に期待
- ・後継者が経営に積極的になりオリジナル商品を販売。大反響であり、ネット販売も好調
- ・TVに出た影響も大きく売上が増加した。メディアの影響は強いと感じた
- ・顧客の高齢化
- ・高齢化に伴い家の生計離れが進む、若い人の考えは引き継ぎ購入してもらえず、スーパーへと変わっていく様です。なので若い人は町内の商店には見向きもしません。近所に引っ越してきた若い夫婦は1年経ちますが、1回も買い物に来てくれません
- ・営業によるコロナ感染が怖い
- ・70歳まで商売が出来るか心配です

#### 【 サービス業（飲食・宿泊を含む）その他 】

- ・各種補助金を受け設備投資をし店内飲食以外での売上を伸ばす取り組みをしている  
コロナに負けない経営を考えている。手頭の腱鞘炎でやむを得ず休業している
- ・コロナ禍で集客の増加は期待できないため、テイクアウト商品の開発や販売に力を入れて売上アップに繋げていきたいと考えています
- ・現在顧客の来店回数を増やす。新規顧客開拓
- ・イベント出店による売上確保
- ・歩行者の減少により今後の経営に不安
- ・早くコロナ騒ぎが終わってほしい。人がまわらない。